

ふにし

日蓮大聖人御真筆写

発行所

日蓮正宗法華講妙縁寺支部

〒130-0001

東京都墨田区吾妻橋 2-2-10

TEL 03(3622)5086

FAX 03(3829)2766

第370号

光久御住職御書講義

# 新池殿御消息

当世の人は人師の言を如来の金言と打ち思ひ、或は法華經に肩を並べて  
齊(ひと)しと思ひ、或は勝れたり、或は劣るなれども機にかなへりと  
思へり。しかるに如来の聖教(しようぎよう)に隨他意・隨自意と申す  
事あり。譬へば子の心に親の隨ふをば隨他意と申す。親の心に子の隨ふ  
をば隨自意と申す。諸經は隨他意なり、仏一切衆生の心に隨ひ給ふ故に。  
法華經は隨自意なり、一切衆生を仏の心に隨へたり。諸經は仏説なれども、  
是を信すれば衆生の心にて永く仏にならず。法華經は仏説なり、仏智なり。  
一字一点も深く信すれば我が身即ち仏となる。譬へば白紙を墨に染むれ  
ば黒くなり、黒漆に白き物を入れるれば白くなるが如し。毒藥變じて藥と  
なり、衆生變じて仏となる、故に妙法と申す。

(御書 一三六五頁)

## 《通釈》

当世の人は謗法の師の言葉を仏様の金言と思ひ、あるいは法華經と諸經を肩に並べて等しいと思ひ、あるいは諸經が勝れている、あるいは諸經は劣るが自分の機根に適っていると思つて、  
ところで仏様の教法に隨他意・隨自意と申す事がある。たとえば、親が子どもの心に合わせて  
応じるは隨他意と言ひ、親の心に子どもが応じるは隨自意と言ふのである。諸經は隨他意である、  
なぜならば仏様が一切衆生の心に合わせるからである。法華經は隨自意である、一切  
衆生が仏様の御心の教えの通りにするからである。諸經は仏説であるが、爾前權經であるので、  
これを信じていても衆生の流れやすい心のままであるので永く成仏はできない。法華經は仏説  
であり、仏様が悟られた法そのものの御仏智である。ゆえに一字一点も深く信じれば我が身は  
即ち仏となる。たとえば白紙に墨を染めれば黒くなり、黒い漆に白き物を入れれば白くなるよ  
うな事である。毒藥が變じて藥となり、衆生が變じて仏となる、よつて妙法と申すのである。

## 解説

本抄は弘安二(一二七九)年五月  
二日、大聖人様が五十八歳の御時、  
愛子を亡くした新池左衛門尉殿が、  
米三石の御供養をされて回向を願  
い出た事に対してしたためられた御消  
息であります。御真蹟は現存しませ  
ん。対告衆の新池殿は、遠江国(と  
うとうみのくに)磐田(いわた)郡  
新池郷(現在の静岡県袋井市)の方で、  
日興上人の教化によつて、妻の新池  
尼と共に大聖人様に帰依したと伝え  
られています。

この本文の直前に大聖人様は、地  
涌の菩薩の上首・上行菩薩の再誕、  
そして末法の御本仏として自ら法華  
經の如く修行の姿を振舞われ、私見  
を交えて勝手に仏法を解釈してい  
るのではないと、諸宗との違いを明確  
に示されました。そして、釈尊が説  
かれた方便である爾前權教は、衆生  
の心に随つて教えを説くので衆生の  
心から出る事はなく、法華經に至る  
と仏様が悟られた内証がそのまま説  
かれるので勝れていると言えるので  
あります。

この勝劣について伝教大師は『法  
華秀句』に、「已説(いせつ)の四時  
(しじ)の經、今(こん)説の無量義經、  
当(とう)説の涅槃經は易信易解(し  
んいげ)なり、隨他意の故に。比

の法華經は最も為(こ)れ難信難解(な  
んしんなんげ)なり、隨自意の故に。  
隨自意の説は隨他意に勝る」と、已  
今当の三説の爾前權經は易信易解の  
隨他意で劣り、三説を超過した法華  
經は難信難解の隨自意で勝れると判  
じられています。

そして、種脱相對から隨他意と  
隨自意を論じれば、文上の本迹二  
門・一切の爾前の經々は、本已有善  
の衆生に対する垂迹化他の仏による  
熟脱の教法ですから隨他意とします。  
これに対し、末法の本未有善の衆生  
には、本地自行の本仏によつて、初  
めて心田に根本の本因下種の妙法が  
植えつけられます。これは下種の御  
本仏日蓮大聖人様の御出現によつて  
なされる事で、その御法体を本門戒  
壇の大御本尊と顕すところを最勝の  
隨自意と拝するのです。

末法の衆生は、本門戒壇の大御本  
尊に身心をまかせて修行に励む時、  
即身成仏の大利益を得る事ができ  
るのであります。(文責・編集部)

## 語句解説

○隨自意と隨他意＝仏が説法  
する場合、衆生の機根に説く事  
を隨自意という。反対に隨他意  
は相手の考え・素質・能力に  
應じて法を説く事。爾前權經は  
隨他意、法華經は隨自意とな  
る。しかし、文底下種法門から  
拝せば、下種・人法一箇の法  
体を、三大秘法總在・本門戒  
壇の大御本尊として建立する  
ところに隨自意がある。